

**第 4 回**  
**行文線未整備区間の**  
**整備再開に向けた村民説明会**

**小 笠 原 村**  
**東京都小笠原支庁**

# 1.行文線事業概要

# 防災道路（ダブルルート化）の必要性・有効性



昭和61年：村議会にて避難道路の必要性が指摘される



昭和61年：清瀬～奥村を高台で結ぶ防災避難道路  
新規路線に認定



昭和63年：村の要望を受けて都が都道行文線として  
整備することを決定



平成4年：村民だよりにて新設道路計画を公表



平成6年：村民の要望により工事説明会を開催

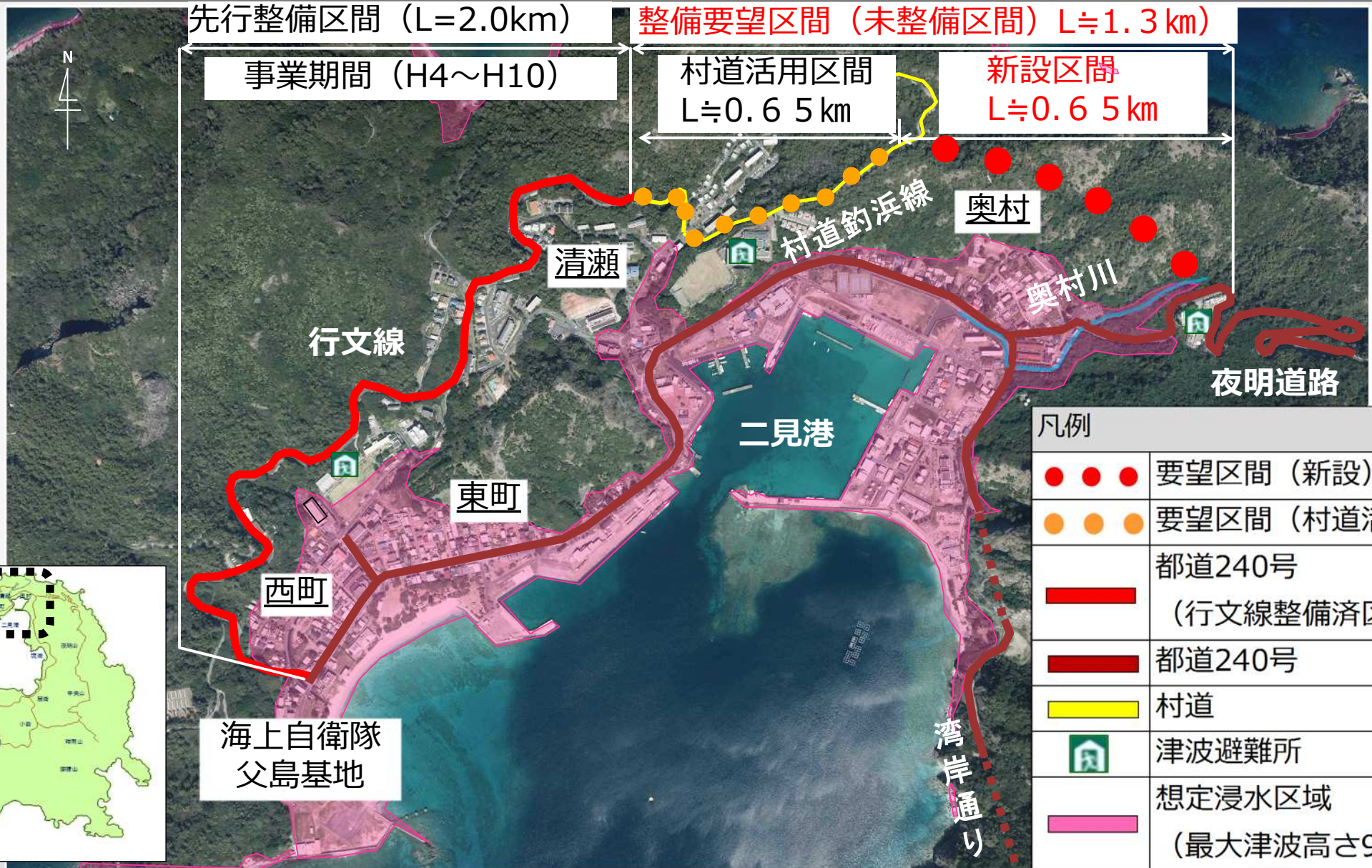


平成7年：合意形成が整わなかったため、事業保留を判断

昭和61.62年：  
植物の専門家等から  
保全すべき植物があるとの  
意見書が提出される

# 防災道路（ダブルルート化）の必要性・有効性

- ・ 救助活動に資する緊急車両の通行
- ・ 資材、物資の輸送路
- ・ 各集落を結ぶ避難路（孤立化の防止）



## 2.整備再開に向けたこれまでの取り組み

# 整備再開に向けた取り組み

平成27年

- ・小笠原村長から東京都建設局長へ整備再開に関する要望書を提出
- ・小笠原村議会が東京都知事へ整備再開を求める意見書を提出

平成28年

- ・「行文線未整備区間の整備に関する検討会」発足

第1回  
整備検討会

第1回  
村民説明会

平成29年

- ・ルート評価に必要な視点・項目を抽出
- ・環境調査結果を踏まえ、3つのルート案を説明
- ・全村民を対象とした意見聴取を実施

第2～3回  
整備検討会

第2回  
村民説明会

平成30年5月まで

- ・検討会、説明会、整備要望者、村民の意見を踏まえ、ルート案を説明
- ・村民だより（平成30年5月）にて、最適なルート案を公表

第4回  
整備検討会

第3回  
村民説明会

平成30年5月以降

- ・「行文線未整備区間の整備に係る専門家会議」発足
- ・防災性や自然環境及び景観に優れた道路構造を検討

第5～6回  
整備検討会

第1～6回  
専門家会議

## 開催概要

### 【日時及び場所】

- ①平成30年3月21日（水） 午後2時～3時30分 午後7時～8時30分  
地域福祉センター2F会議室
- ②平成30年3月27日（火） 午後2時～3時30分 午後7時～8時30分  
村役場第一庁舎2F会議室

### 【参加者】

- ①10（昼）+10（夜）=20名 ②13（昼）+5（夜）=18名

## 主な意見等

- 是非この事業を進めていただきたい。「一部地上案」はよいと思う。
- 奥村に住んでいる者にとって、この防災道路はとても期待している。
- トンネルよりも空が見える構造にして、普段から慣れ親しみやすい道にして欲しい。
- 完成後の維持管理が不安である。
- 地下塚について、できるだけ保護してほしい。

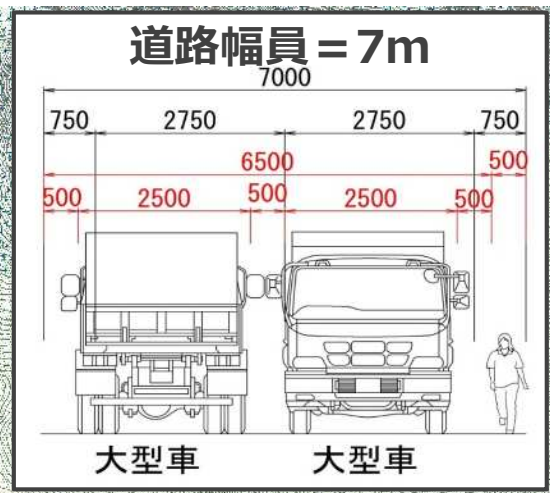
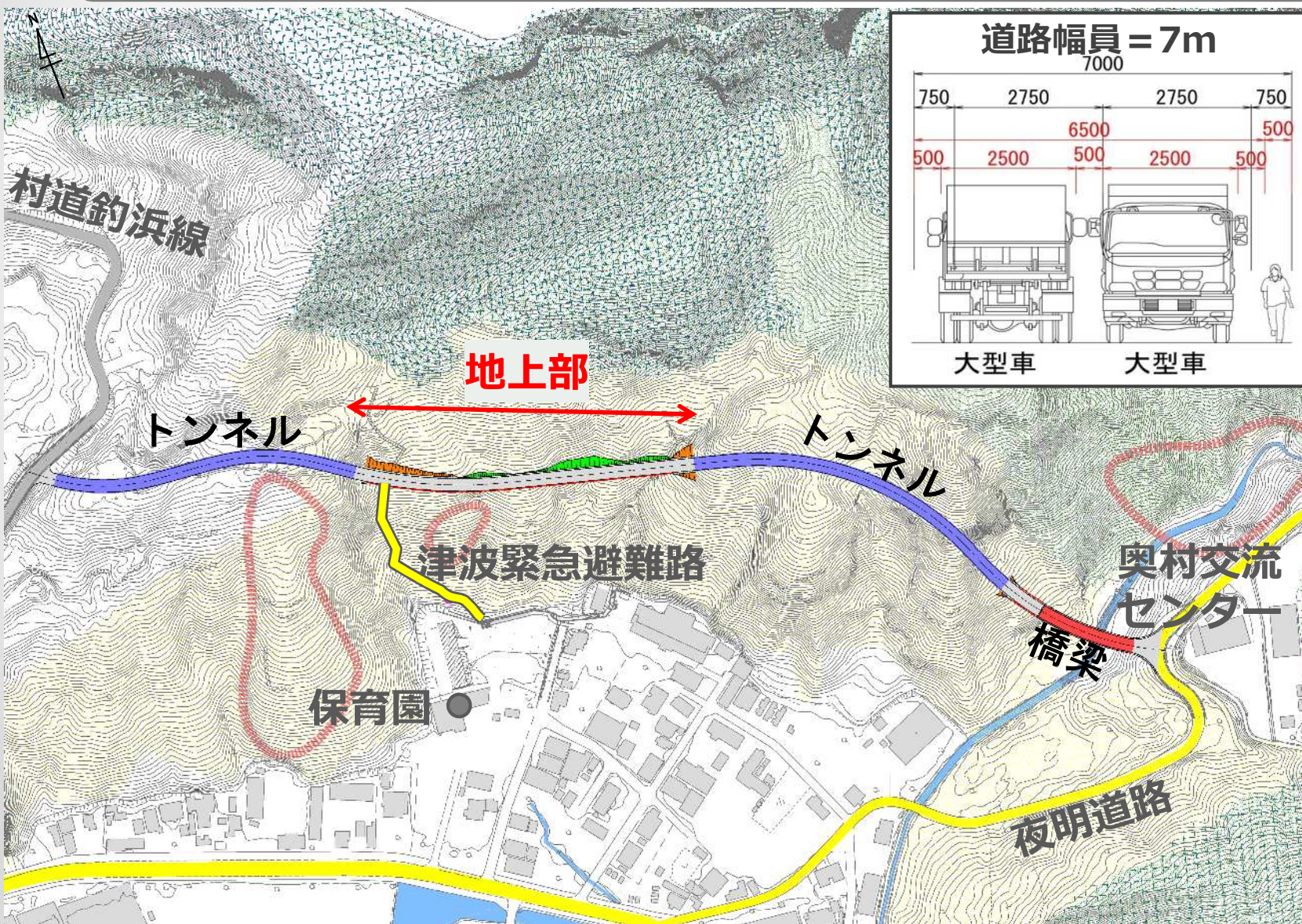
## 総括

- 最適ルート案として「一部地上案」の説明を行った。
- 様々な意見をいただいたが、事業に賛成の意見が多く見受けられた。



# 最適ルート「一部地上案」について

- ・ 自然環境と景観への配慮が可能
- ・ 保育園裏の津波緊急避難路との接続が容易
- ・ トンネル延長を短縮し、防災及び治安面の課題、不安感を解消

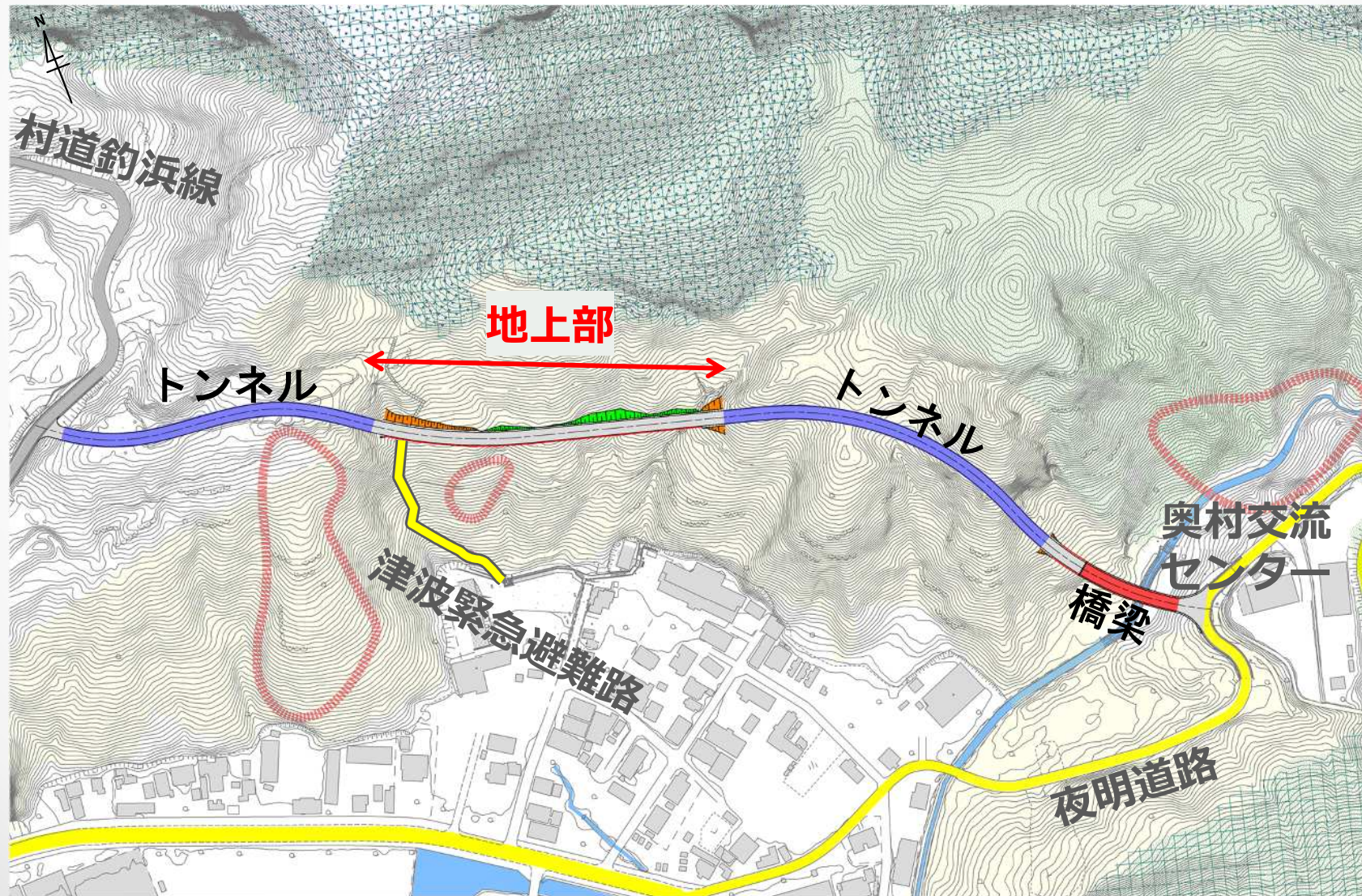


道路構造	
	切土
	盛土
	平場
	擁壁
	トンネル
	橋梁
	自然環境関連の コントロールポイント

法規制等区域	
	世界遺産区域
	国立公園 特別保護地区
	森林生態系保護地域 保存地区
	森林生態系保護地域 保全利用地区

# 今回（第4回）村民説明会の説明項目

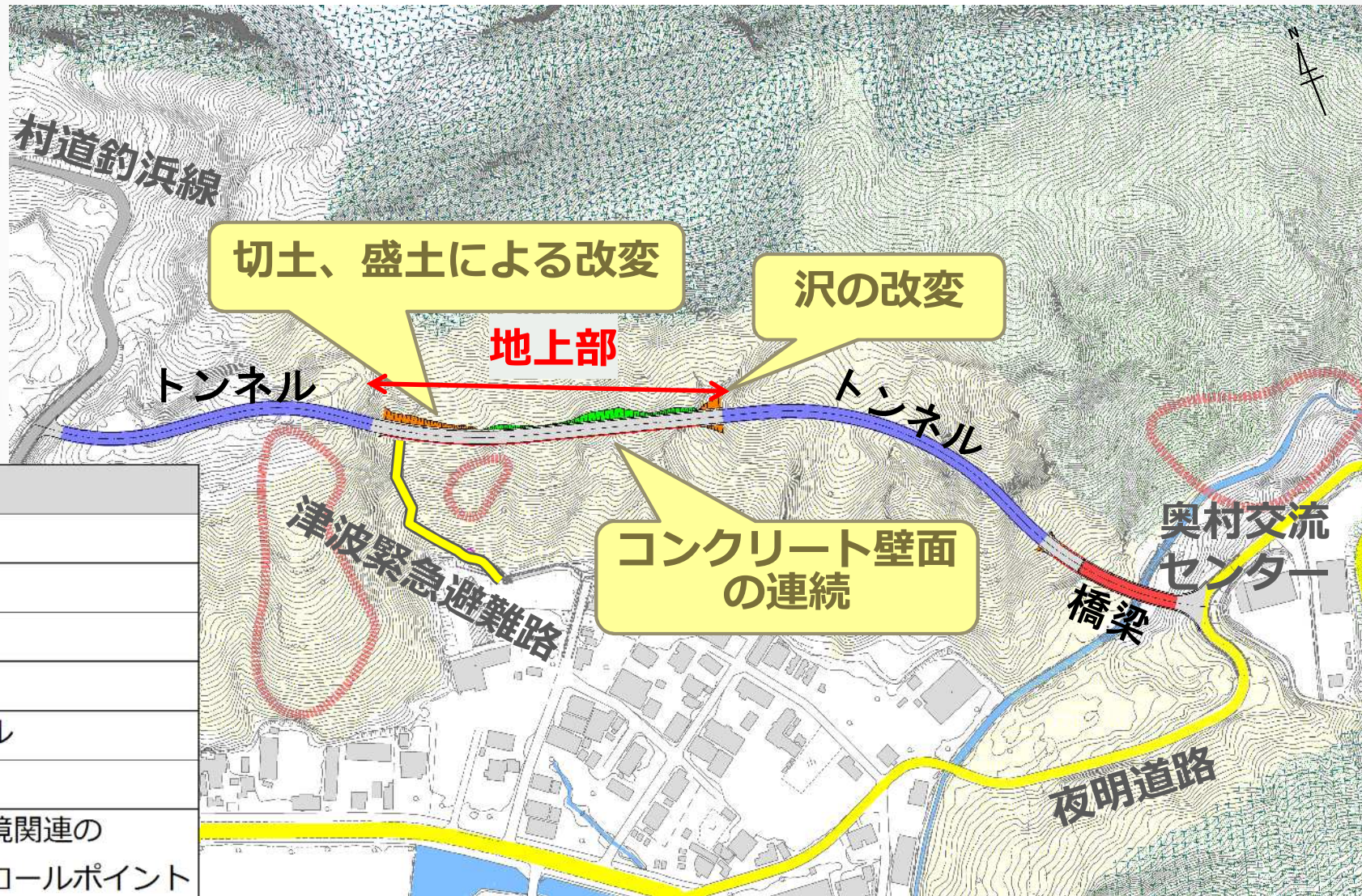
- ・地上部における道路構造検討の結果について
- ・主な道路構造検討状況について
- ・全体計画図及び整備イメージについて
- ・環境影響評価及び環境保全措置の検討状況について



## 3.地上部における道路構造の検討結果

## 【地上部（擁壁構造）における課題】

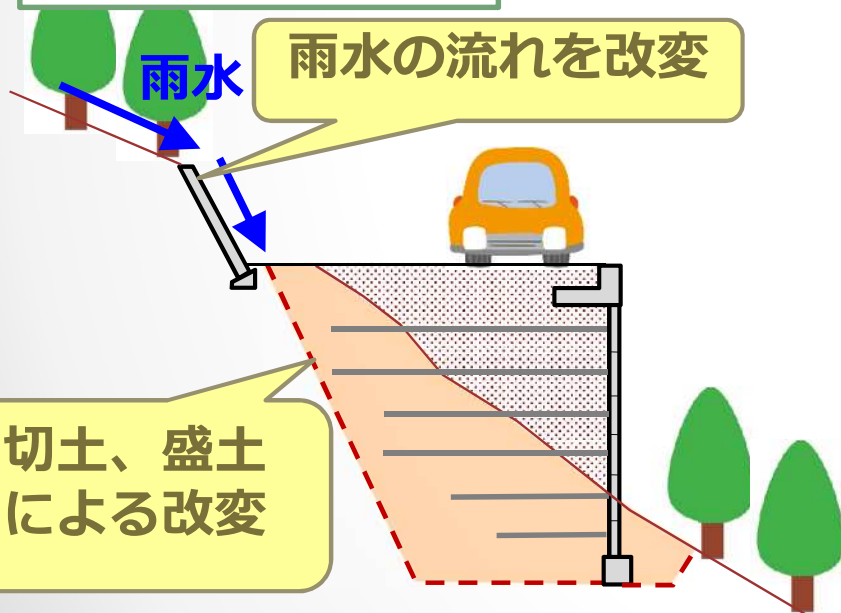
- ・ 山側の切土や盛土により、地形改変が生じる
- ・ 沢の改変が生じるため、自然環境への影響が懸念される
- ・ コンクリートの壁面が連続するため、景観性が懸念される



## A案：擁壁構造



### 擁壁構造の特徴

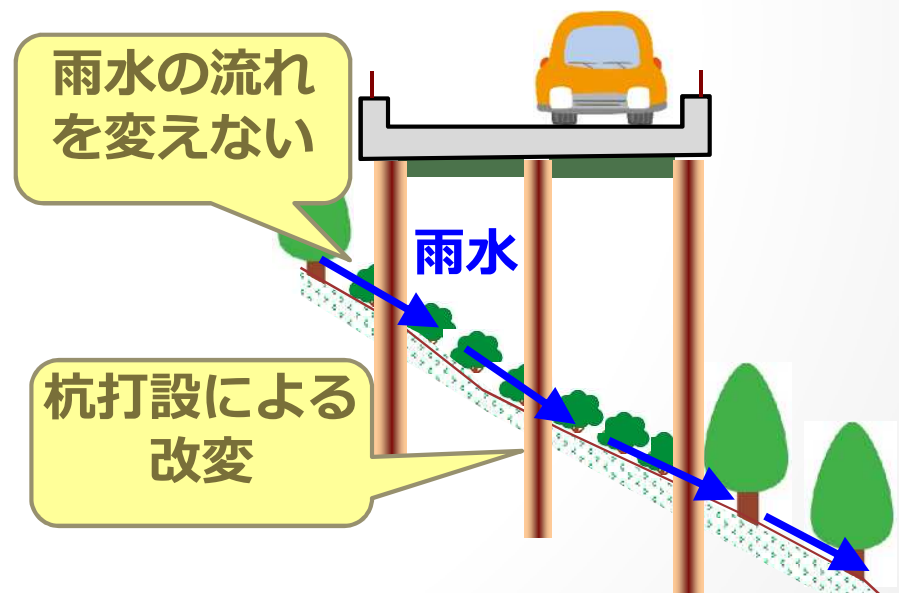


切土、盛土をコンクリートの壁で抑える構造

## B案：鋼製栈道構造

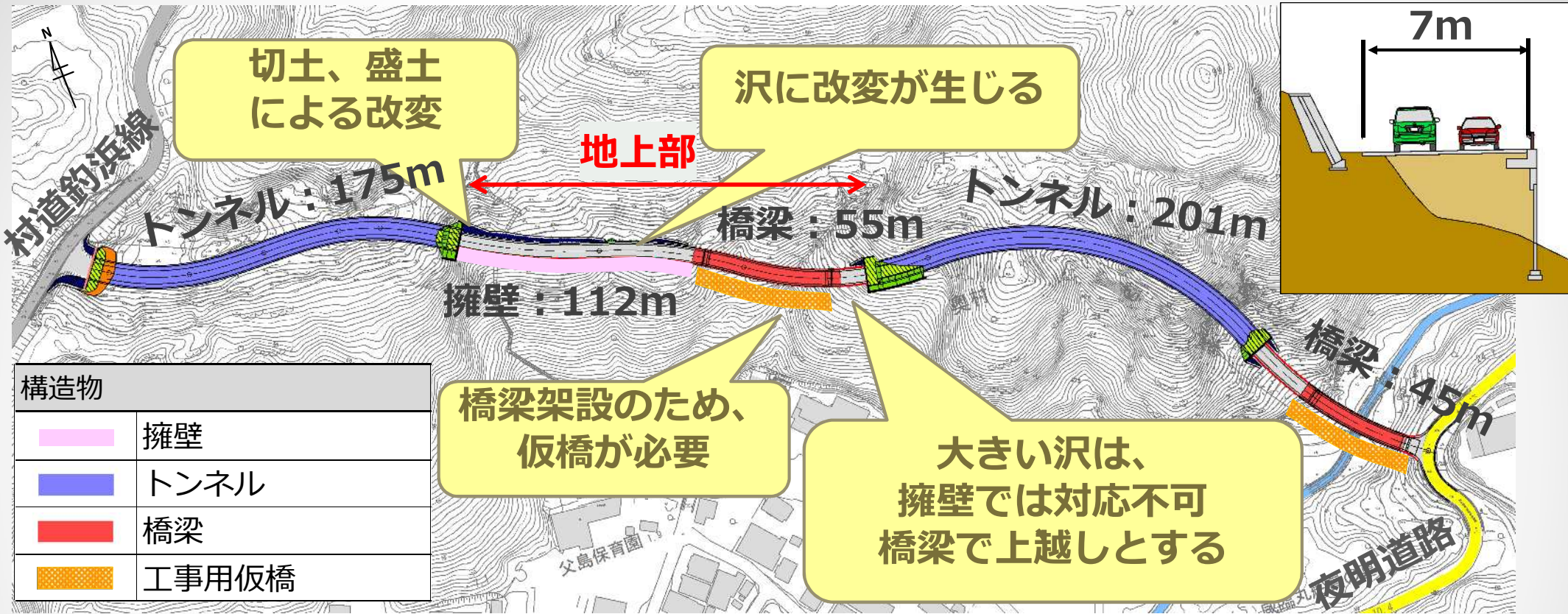


### 鋼製栈道構造の特徴

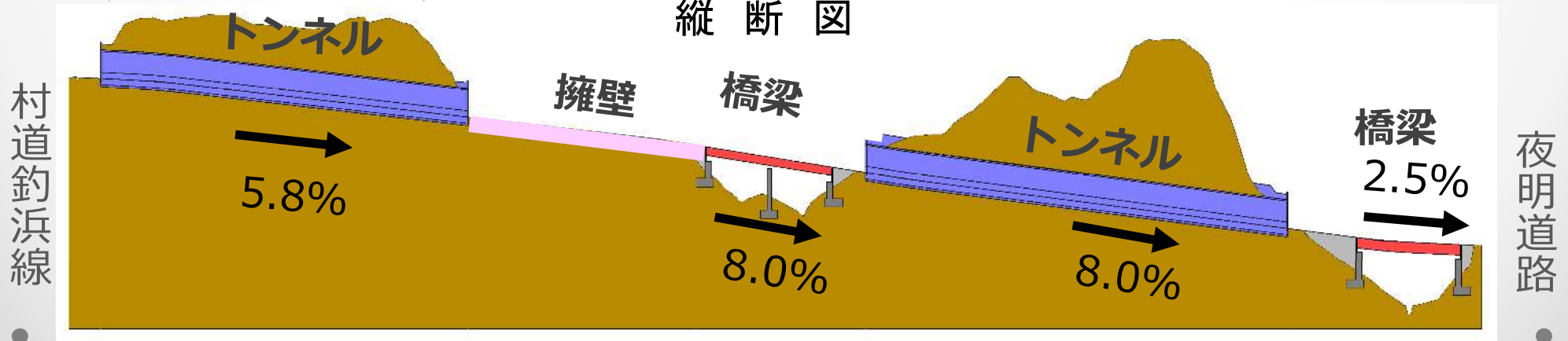


杭を打ち込み、桁を架けて、床版を載せる栈道構造

平面図

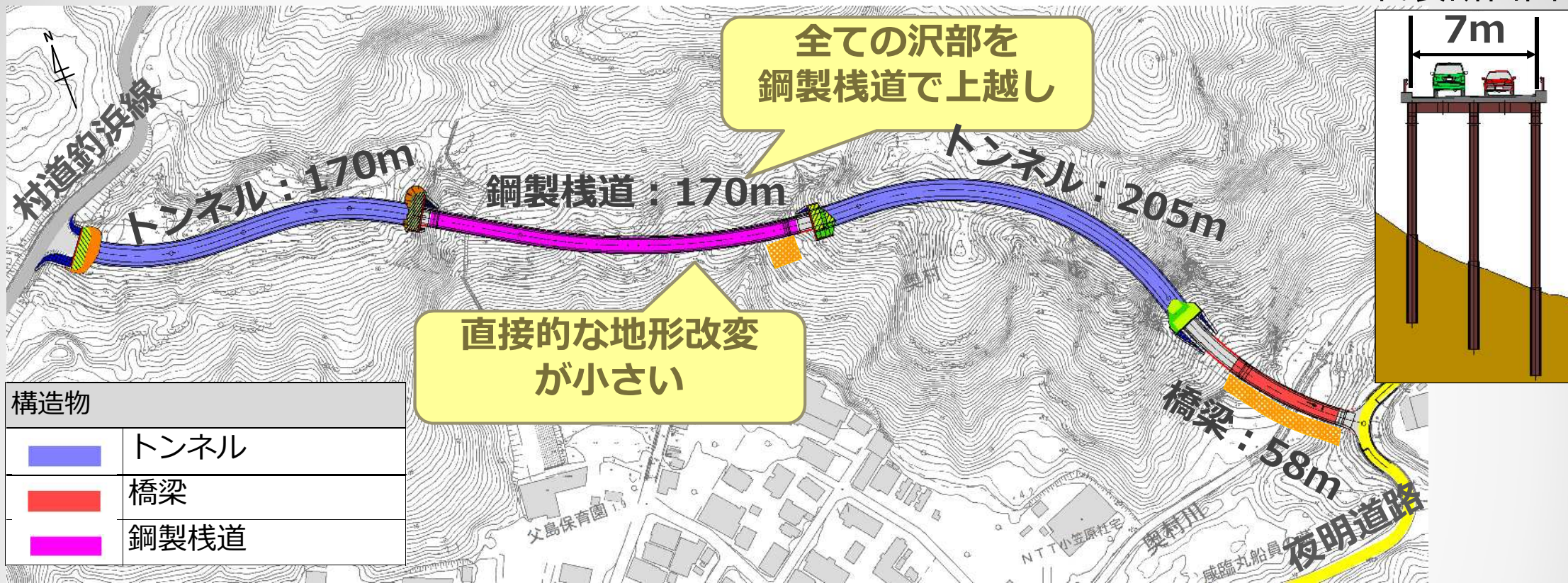


縦断図

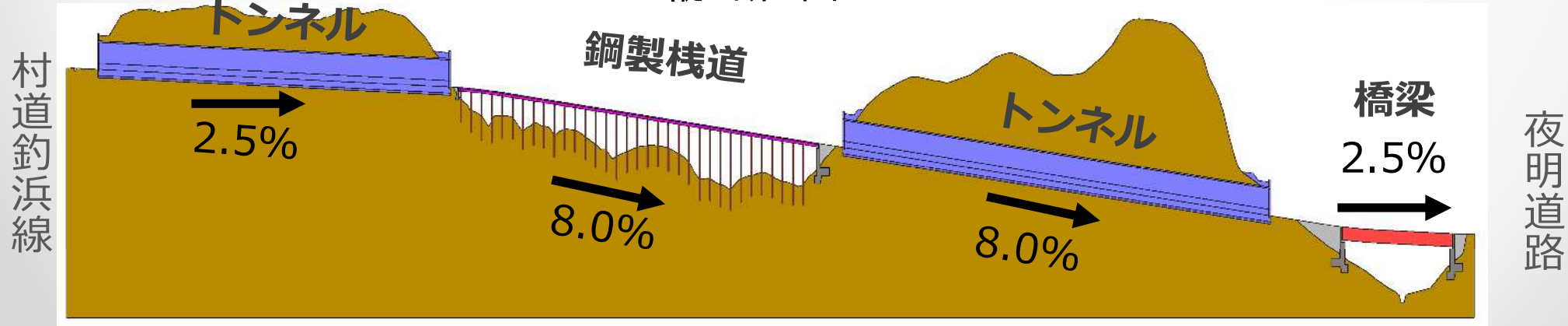


### 平面図

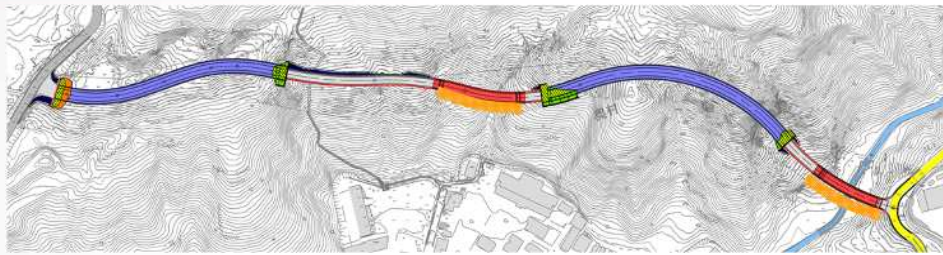
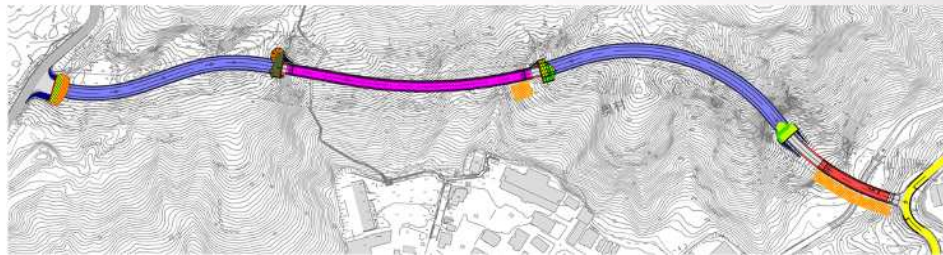
### 代表断面図



### 縦断図



# 道路構造の比較検討（比較表）

項目	A案：擁壁構造		B案：鋼製栈道構造	
図面				
経済性	—	・ B案と同程度	—	・ A案と同程度
防災性	△	・ 道路が土砂災害等を受けやすい	○	・ <u>道路が土砂災害等の影響を受けづらい</u>
自然環境	△	・ 掘削、沢の改変が大きい ・ 沢の改変により、生態系に影響が懸念	○	・ <u>掘削、沢の改変が小さい</u>
生活環境	○	・ B案より騒音振動の影響が小さい	△	・ 杭打設時に騒音振動が発生 →防音対策により影響の軽減を図る
景観	△	・ 圧迫感があり、馴染みづらい。	○	・ <u>視覚的な透過性が高く、景観色が採用できるので、馴染みやすい</u>
施工、維持管理実績	○	・ 島内で施工、維持管理実績がある	△	・ 島内で施工、維持管理実績がない →大島・八丈島で実績あり
工期	—	・ B案と同程度	—	・ A案と同程度
評価		不採用		採用



- ・ 防 災 性 ： 斜面を背負わないため、土砂災害等の影響を受けにくい。
- ・ 自然環境： 栈橋形式のため、地山、沢の改変等を抑制できる。
- ・ 景 観 ： 視覚的な透過性が高く、景観色の採用もできるため、景観に馴染みやすい。



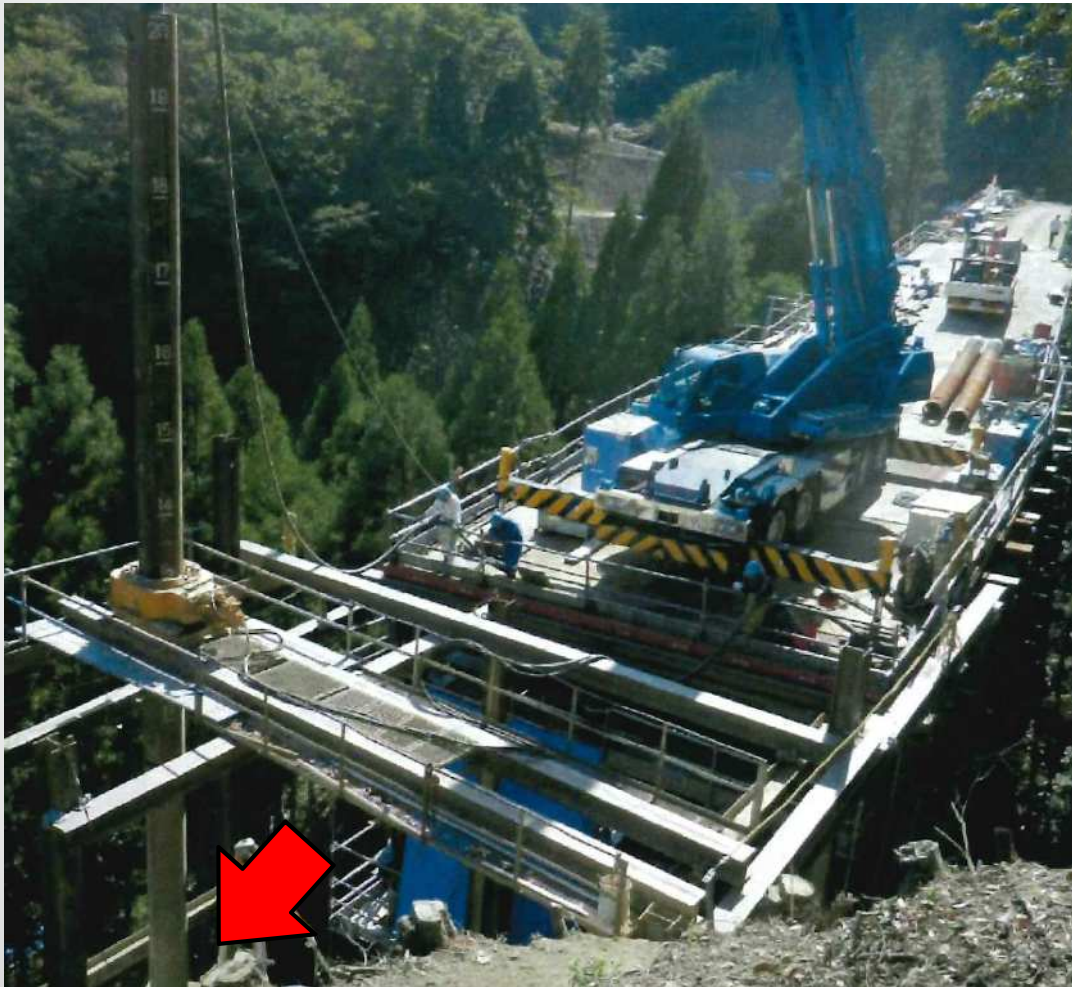
地すべりの影響を受けない鋼製栈道



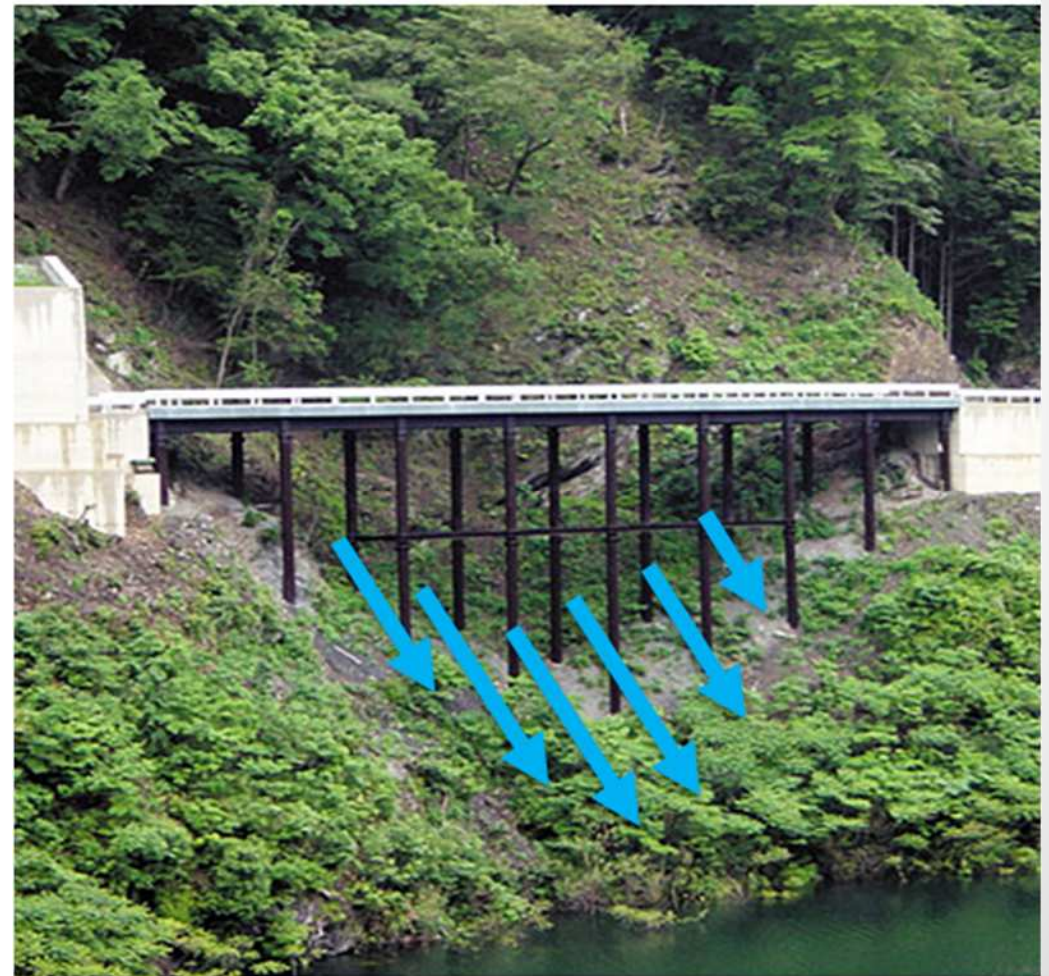
被災の様子（島内擁壁部）

# B案：鋼製棧道構造の利点

- ・ 防 災 性 ： 斜面を背負わないため、土砂災害等の影響を受けにくい。
- ・ 自然環境： 棧橋形式のため、地山、沢の改変等を抑制できる。
- ・ 景 観 ： 視覚的な透過性が高く、景観色の採用もできるため、景観に馴染みやすい。



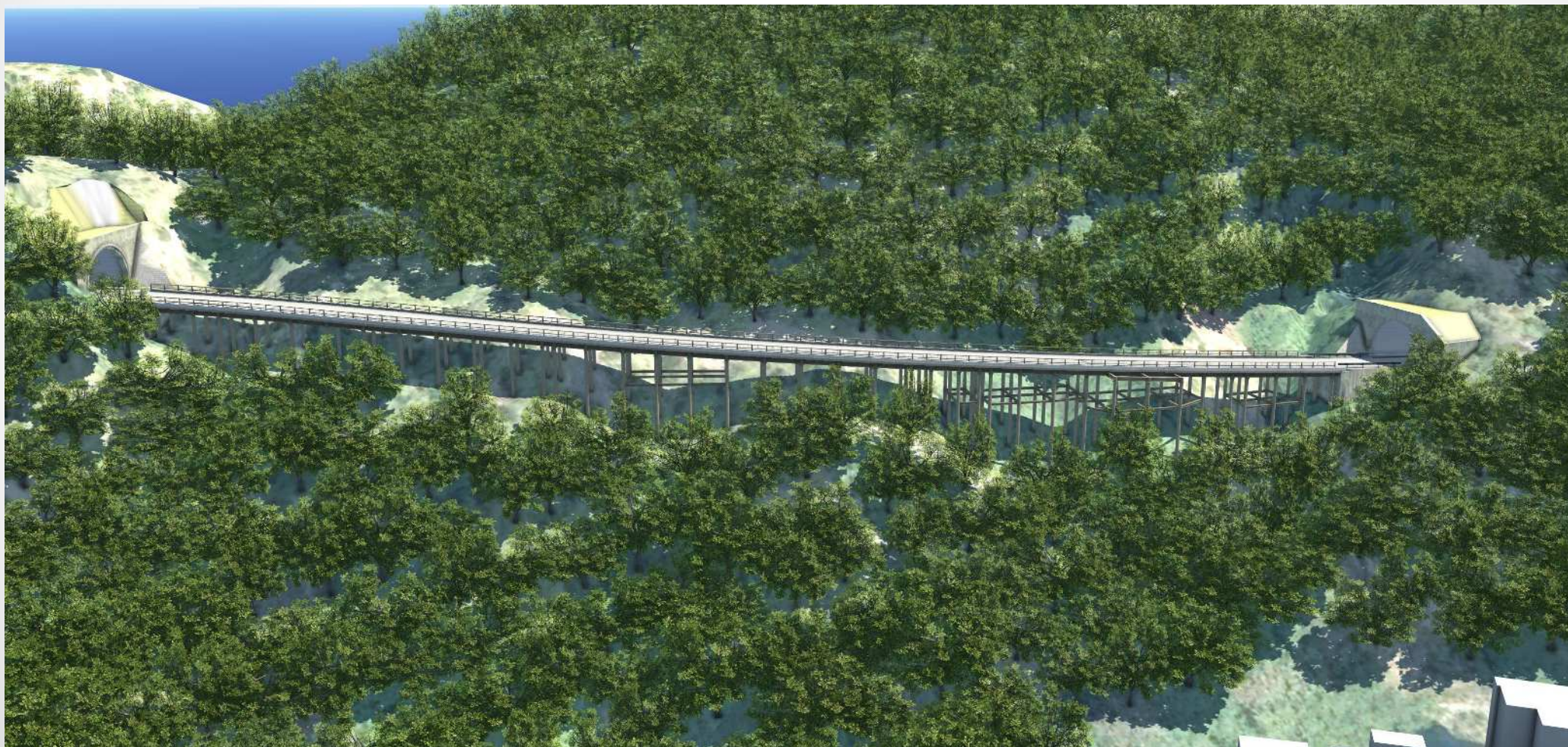
地山改変の抑制



水の流れの保持

# B案：鋼製栈道構造の利点

- ・防 災 性：斜面を背負わないため、土砂災害等の影響を受けにくい。
- ・自然環境：栈橋形式のため、地山、沢の改変等を抑制できる。
- ・景 観：視覚的な透過性が高く、景観色の採用もできるため、景観に馴染みやすい。



景観に馴染む鋼製栈道のイメージ

## 4. 主な道路構造の検討状況

## トンネル坑口のイメージ図

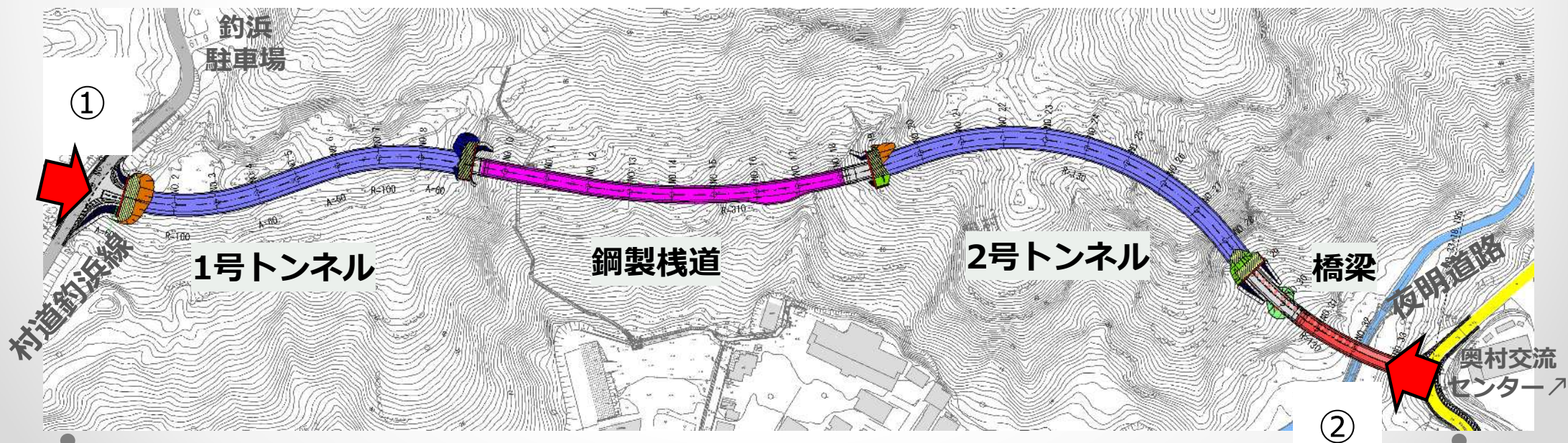
①1号トンネル起点側

至：奥村



②2号トンネル終点側

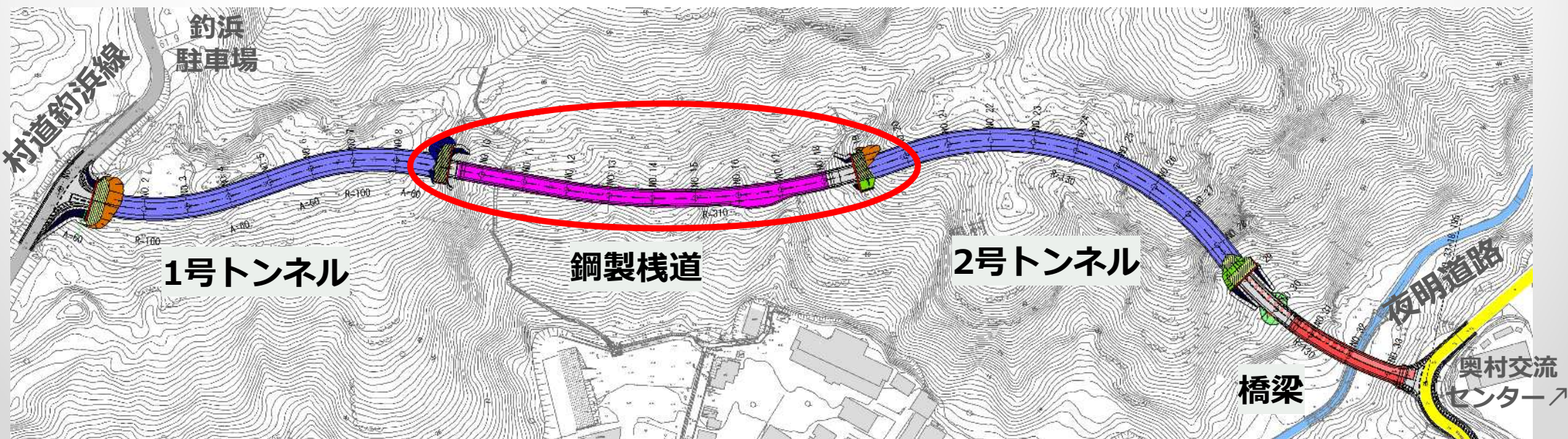
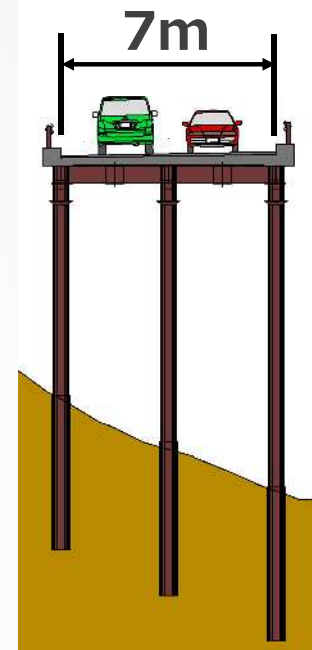
至：清瀬

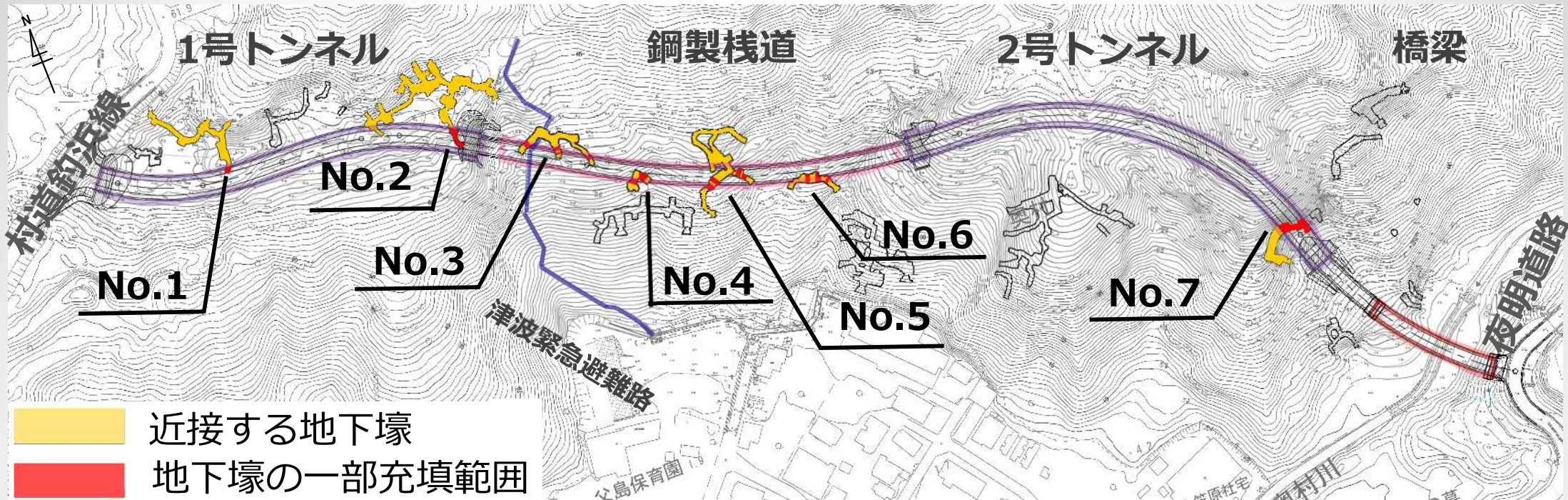


## 鋼製栈道のイメージ図



標準断面図  
鋼製栈道区間





- 近接する地下壕
- 地下壕の一部充填範囲

## 近接対策 (杭と地下壕の離隔確保)

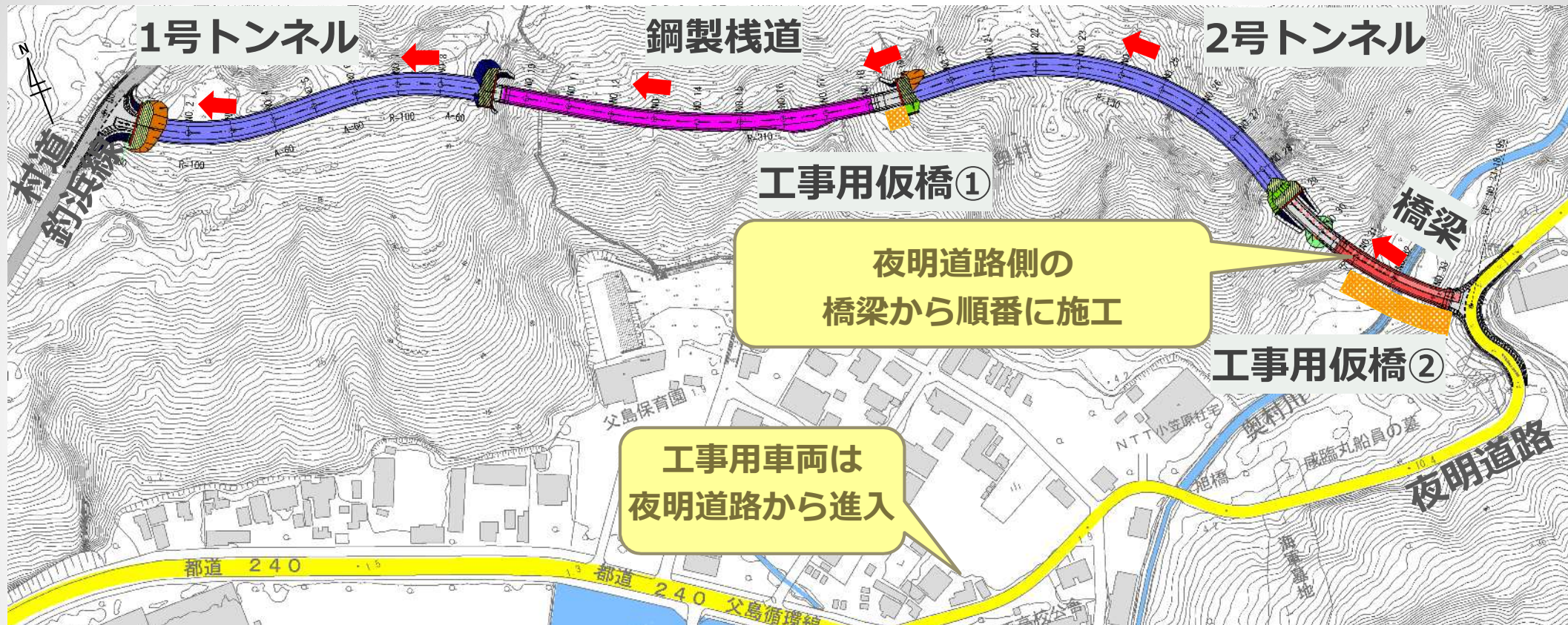
- ・ 鋼製栈道の杭は、地下壕に対して一定の離隔を確保するように配置

## 充填対策 (地下壕の崩落防止)

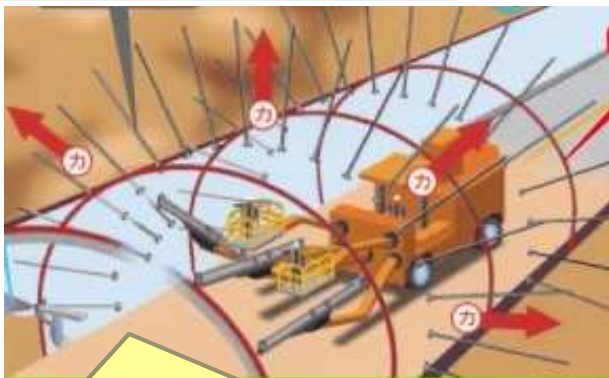
- ・ 必要最小限の範囲に対して、地下壕の内部を充填する。



地下壕と離隔を確保した杭配置(No.5~6付近)

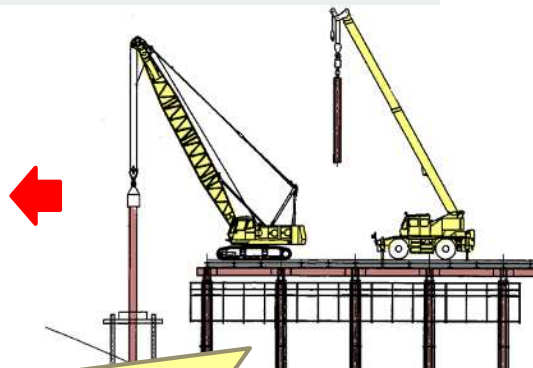


## トンネル施工イメージ図



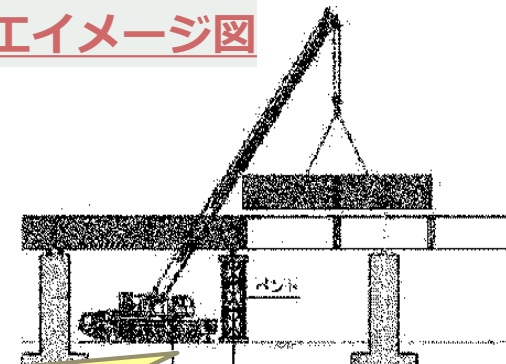
機械により地盤を掘削

## 鋼製栈道施工イメージ図



栈橋を継ぎ足して施工

## 橋梁施工イメージ図



クレーンで橋桁を吊り上げて、橋台の上に設置



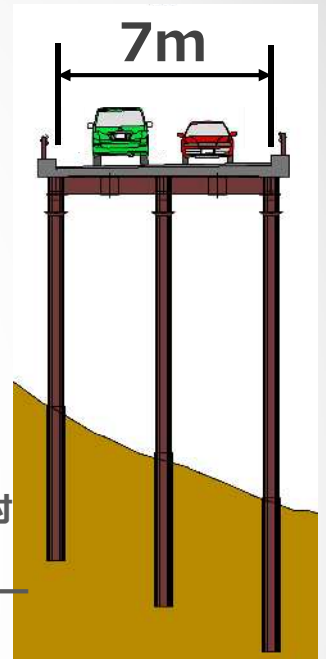


## 5.全体計画図及び整備イメージ

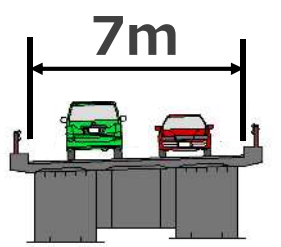
## 平面図



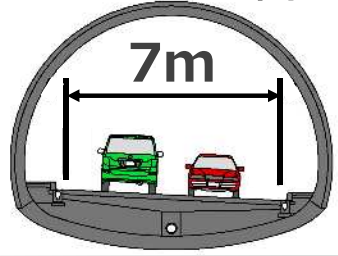
## 標準断面図 鋼製栈道区間



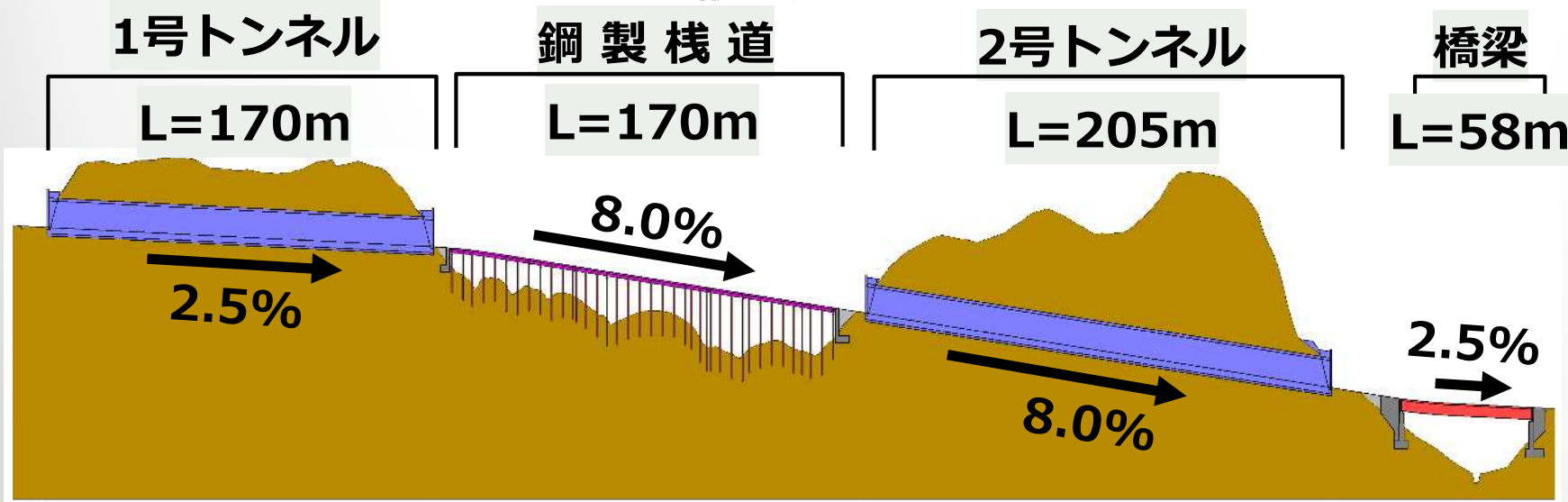
橋梁区間



トンネル区間



## 縦断図





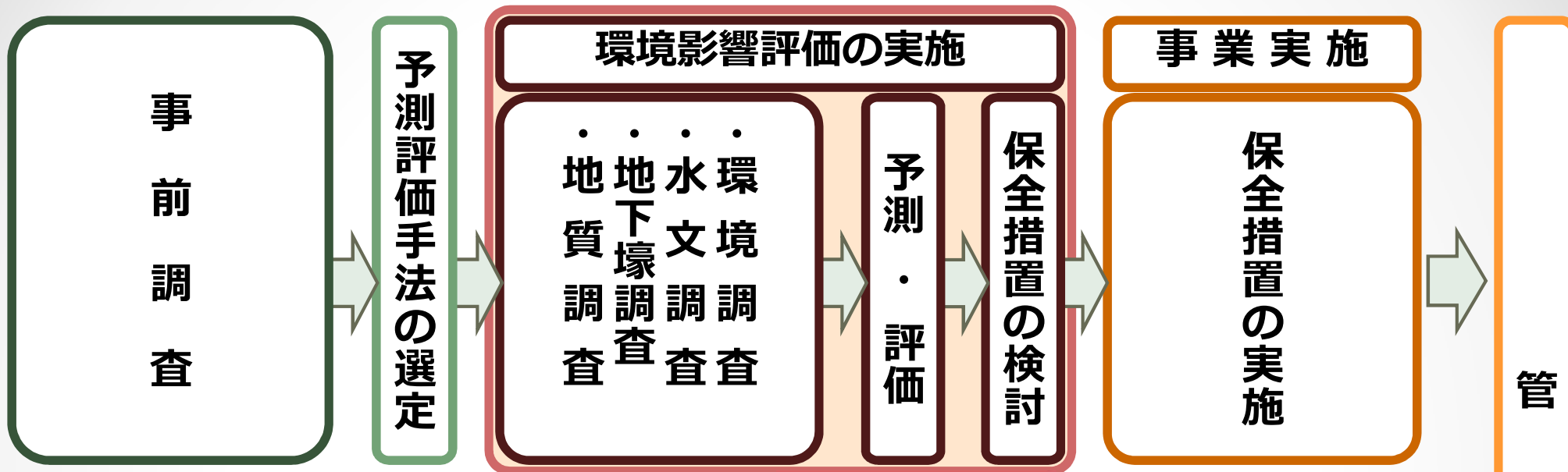
パノラマ展望台からの整備イメージ



海上からの整備イメージ

## **6. 環境影響評価及び 環境保全措置の検討状況**

環境影響評価のながれ



<モニタリング>

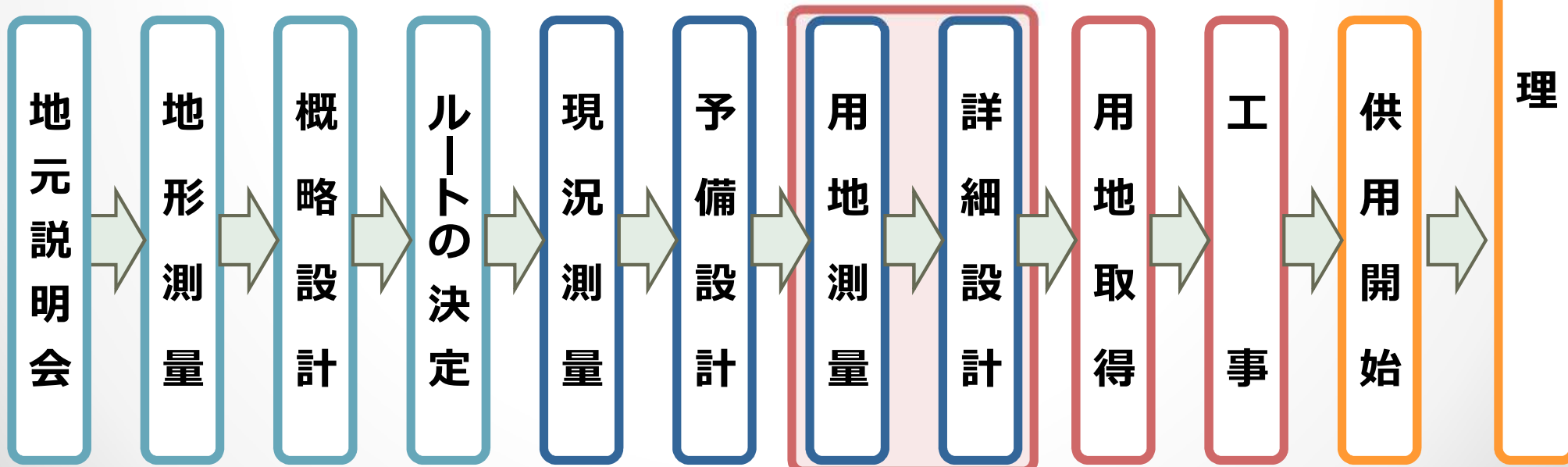
工事前

現在実施中

工事中

工事後

事業のながれ



## 専門家会議の設置

- 学識経験者等により、環境に配慮した事業のあり方や、保全対策について助言をいただいている。

### 専門家会議の実施状況と各回の主な議題

専門家会議の実施状況と各回の主な議題		
第1回	H30.8.28	環境影響評価の進め方
第2回	H31.2.19	影響評価の手法、保全対策案、今後の調査計画
第3回	R1.9.12	予備設計を踏まえた保全対策
第4回	R2.2.20	概略影響予測結果、鋼製栈道を踏まえた保全対策
第5回	R2.9.4	自然環境の影響予測結果、保全対策の具体化
第6回	R3.2.16	生活環境の影響予測結果、保全対策の具体化

## 環境影響評価項目（11項目）

東京都環境影響評価条例規則第6条に準じて選定

大気質

騒音・振動

景観

地盤

水循環

水質汚濁

自然との触れ合い活動の場

生物・生態系

風環境

廃棄物

史跡・文化財

## 水質汚濁

- ・ 奥村川での水質対策
- ・ 供用後の道路排水対策 など

## 生物・生態系

- ・ 重要種の保全措置
- ・ 外来種の拡散防止策
- ・ 改変箇所の緑化対策
- ・ 外来種侵入防止 など

## 全般

- ・ 工事前～供用後のモニタリングの必要性
- ・ 環境影響評価の基礎となる各種調査の手法について
- ・ 環境影響評価の進め方について など



専門家会議実施の状況



## 大気質

- ・ 排出ガス対策型建設機械の採用
- ・ 防塵シートでの被覆
- ・ 裸地部への散水 など

## 生物・生態系

- ・ 改変範囲の最小化の検討
- ・ 夜間照明対策
- ・ 道路標識の設置
- ・ 改変箇所緑化、  
外来種の侵入防止 など

## 全般

- ・ 工事前～供用後のモニタリング実施

## 騒音・振動

- ・ 低騒音型建設機械の採用
- ・ 工事用車両の台数調整 など

## 水質汚濁

- ・ 濁水処理施設の設置
- ・ 裸地の早期被覆
- ・ 沈砂池の設置
- ・ 供用後の道路排水対策 など

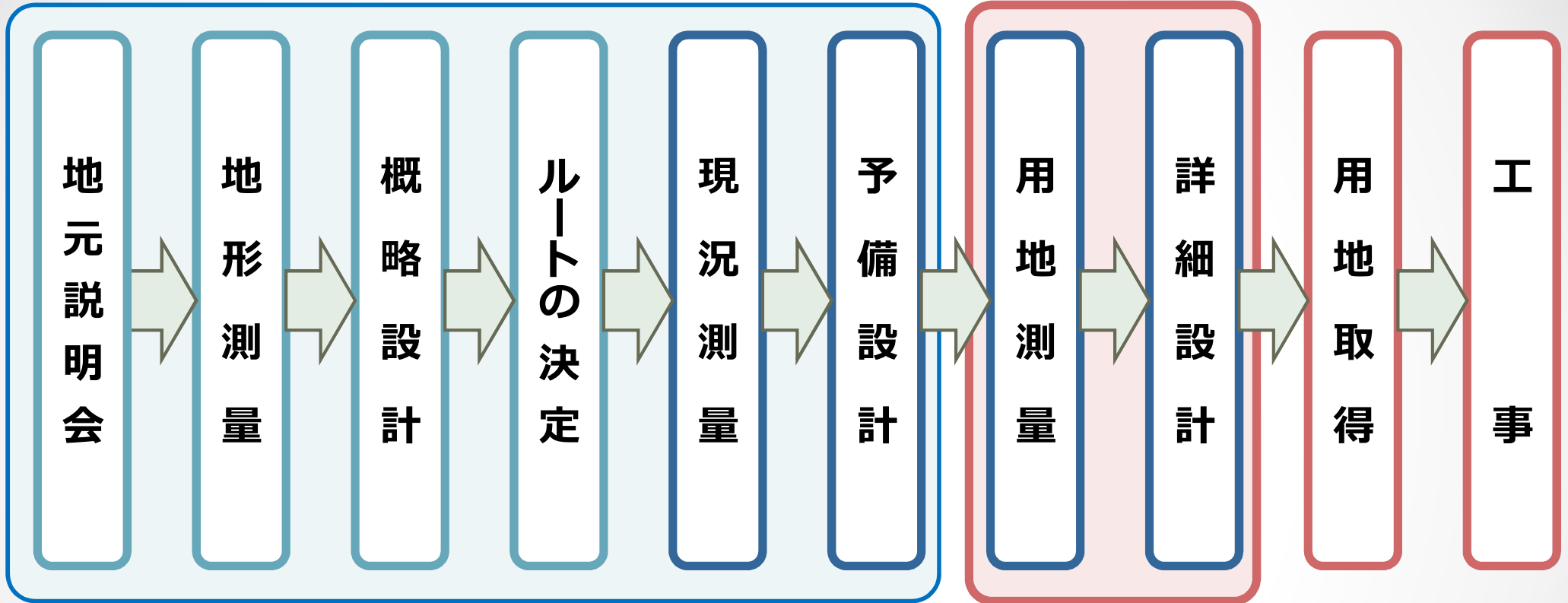
## 景観

- ・ 法面の緑化等
- ・ トンネル坑口等の表面処理等 など

## 7. 今後の事業スケジュール

H28~R1年度実施

現在実施中



整備検討会

専門家会議

村民説明会

計画段階

設計段階

事業段階